



独立行政法人  
大学改革支援・学位授与機構  
National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

# 機構ニュース

Vol.233 2022 November

## 今月の記事

### Top News

- 令和4年度大学等の質保証人材育成セミナー  
第1回「高等教育と生涯学習を横断する質保証」を開催  
.....1

### 質保証連携

- 台湾高等教育評鑑中心基金会（HEEACT）  
主催国際会議で発表、HEEACTと覚書を  
更新  
.....5

### 学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業生等を対象とする  
単位積み上げ型の学位授与関係

- 令和4年度10月期申請における試験日程に  
ついて  
.....2

- 281人に学士の学位を授与 — 令和4年度  
4月期申請分 —  
.....3

### 調査研究

- 研究開発部教員紹介  
.....7

### 機構の窓

- 新型コロナウイルス感染症対策について  
.....9

### 主要行事日程

- Schedule（11月～令和5年1月）  
.....10

## Top News

### ○ 令和4年度大学等の質保証人材育成セミナー第1回「高等教育と生涯学習を横断する質保証」を開催

令和4年10月6日（木）に、令和4年度大学等の質保証人材育成セミナー第1回をオンラインで開催しました。

当機構では、平成29年度より大学等の質保証活動を実効性のあるものとするため、大学等と評価機関が連携して質保証に関わる人材の能力向上を支援することを目的として、「大学等の質保証人材育成セミナー」を開催しております。

令和4年度は、「高等教育と生涯学習を横断する質保証」をテーマに、高等教育と生涯学習を接続する観点からそのために求められる質保証のあり方、労働市場との接続可能性について現状を認識しつつ、将来に向けた議論を行うこととし、年度内に4回開催予定です。

第1回である今回は、大学等の教育機関教職員を中心に229名の参加（視聴）があり、当機構研究開発部の教員3名が第2回以降のフレームワークとなる高等教育の質保証、大学内外での学習や経験を認定するための取組や課題についての国際動向、高等教育における生涯学習の役割等についての講演を行いました。

講演後、参加者から寄せられた質問への回答を交えながら、全体ディスカッションを行いました。

当日の資料及び動画は、当機構[ウェブサイト](#)及び[大学質保証ポータル](#)に掲載されています。

第2回は12月5日、第3回は1月下旬、第4回は3月上旬に開催予定です。

#### 【セミナーの概要】

- 実施日：令和4年10月6日（木）
- 開催方式：オンライン開催（Zoomミーティング）
- 参加状況：参加者：229人
- プログラム構成

##### ①講演

「これからの認証評価－高等教育改革20年間を踏まえて－」

研究開発部 土屋 俊 研究開発部長

##### ②講演

「シームレス化する高等教育－正規教育外学習の「質保証」をめぐる国際動向－」

研究開発部 野田 文香 准教授

##### ③講演

「社会における高等教育の役割と行く末－参入障壁低下がもたらすもの－」

研究開発部 坂口 菊恵 教授

##### ④全体ディスカッション・フロアとの意見交換



全体ディスカッションの様子

## 学位授与事業

### 短期大学・高等専門学校卒業者を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

当機構では、短期大学や高等専門学校を卒業、あるいは専門学校を修了するなど、すでに高等教育機関において一定の学習を修めた者に対して、審査の上、学士の学位を授与しています。

当機構の「学士の学位」を取得するためには、上記学校を卒業または修了するなど一定の学習を修めた後、大学において科目等履修生制度を利用するなど必要な単位を修得し、「修得単位の審査」及び「学修成果・試験の審査」を受ける必要があります。両方の審査に合格すると、大学卒業者と同等以上の学力を有すると認められ、「学士の学位」が授与されます。

(※短期大学・高等専門学校卒業者を対象とする単位積み上げ型の学位授与(学士)について詳しく知りたい方は、[こちら](#)をご覧ください。)

学位授与申請は、毎年度2回(4月期と10月期)受け付けており、令和4年度10月期においては、617人の申請を受け付けました。令和4年度10月期は、12月11日(日)に面接試験を東京で実施し、12月18日(日)に小論文試験を東京、大阪の2地区で実施します。

なお、今後の新型コロナウイルス感染症の状況により、試験の延期・中止等もありえます。最新情報を機構ウェブサイトに随時掲載しますのでご注意ください。

### ○ 令和4年度10月期申請における試験日程について

#### 1 試験日・試験場

試験の区分	試験場	試験日時
小論文試験 (学修成果として レポートを提出した者)	東京地区 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 小平本館 (東京都小平市学園西町1-29-1)	令和4年12月18日(日) 10時30分~12時00分 15時00分~16時30分
	大阪地区 大阪私学会館 (大阪府大阪市都島区網島町6-20)	令和4年12月18日(日) 10時30分~12時00分 15時00分~16時30分
面接試験 (専攻の区分「音楽」、「美術」、 「演劇」のいずれかでレポート 以外の学修成果を提出した者)	東京地区 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 小平本館 (東京都小平市学園西町1-29-1)	令和4年12月11日(日) 面接試験時間は受験票で ご確認ください。

#### 2 受験票などの送付

受験票は、受験者心得とともに試験日の10日前までに送付しています。なお、「新型コロナウイルス感染症への対応について」等の注意事項も同封しますので、必ず内容をご確認ください。

#### [お問合せ先]

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構管理部学位審査課

〒187-8587 東京都小平市学園西町1-29-1

電話：042-307-1550(問合せ専用)

受付時間：9:00~12:00 13:00~17:00(土・日曜、祝日、年末年始を除く。)

○ 281 人に学士の学位を授与 —令和4年度4月期申請分—

令和4年度4月期に学士の学位授与申請のあった短期大学、高等専門学校卒業生及び専門学校修了者等324人のうち、281人に対し学士の学位を授与しました。

今回の学士の学位授与については、各専門委員会・部会で行われた修得単位の審査及び学修成果・試験の審査に基づき、令和4年8月22日（月）開催の学位審査会において審査が行われました。

〈令和4年度4月期学士の学位授与申請者数及び取得者数〉  
(専攻の区分別)

専攻分野の名称	専攻の区分	申請者数（人）	取得者数（人）
文 学	英語・英米文学	2	1
	歴史学	1	1
	哲学	1	1
	心理学	1	0
教育学	教育学	10	9
社会学	社会学	1	0
教 養	地域研究	1	1
	科学技術研究	1	0
経済学	経済学	5	3
商 学	商 学	1	1
経 営 学	経 営 学	1	1
理 学	生物学系	2	1
	総合理学	1	1
薬 科 学	薬 科 学	2	2
看 護 学	看 護 学	219	200
保 健 衛 生 学	検査技術科学	10	8
	臨床工学	11	11
	放射線技術科学	5	3
	理学療法学	6	5
	作業療法学	3	3
	言語聴覚障害学	2	0
鍼 灸 学	鍼 灸 学	1	1
口 腔 保 健 学	口腔保健衛生学	3	3
	口腔保健技工学	2	2
柔 道 整 復 学	柔 道 整 復 学	1	1
栄 養 学	栄 養 学	3	2

専攻分野の名称	専攻の区分	申請者数（人）		取得者数（人）	
工 学	機 械 工 学	3	[1]	2	[1]
	電 気 電 子 工 学	3		2	
	情 報 工 学	4		3	
	応 用 化 学	1		0	
	土 木 工 学	1		0	
商 船 学	商 船 学	7	[6]	6	[5]
農 学	農 学	1		0	
水 産 学	水 産 学	1		0	
芸 術 学	美 術	7		7	
合 計		324	[7]	281	[6]

※ [ ]内は特例適用専攻科修了見込での申請者数及び取得者数で内数。

## 質保証連携

### ○ 台湾高等教育評鑑中心基金会（HEEACT）主催国際会議で発表、HEEACT と覚書を更新

令和4年10月5日（水）、当機構の覚書締結機関の台湾高等教育評鑑中心基金会（HEEACT: Higher Education Evaluation and Accreditation Council of Taiwan）主催による国際会議「2022 HEEACT Virtual International Conference」がオンライン形式で開催されました。

同会議は、「質保証機関の発展と質保証のトレンド（The Development of Quality Assurance Agencies and the Trends in QA）」をテーマに、日本、台湾、マレーシア、インドネシア、豪州の質保証機関から、各機関が行う大学評価の紹介やパンデミックの高等教育や質保証への影響等についての発表が行われました。会議には、台湾の高等教育関係者を中心に、インドネシア、マレーシア、米国、カナダ、ドイツ、フィリピン等から約160名の参加がありました。

当機構からは福田機構長と戸田山研究開発部客員教授が「日本の高等教育質保証の現状と将来展望」と題する共同発表を行いました。はじめに福田機構長より、コロナ禍で加速した高等教育質保証をとりまく世界的な状況と質保証への示唆について、「国際化」、「多様化」、「不確実性」をキーワードに問題提起を行い、困難な状況を高等教育質保証のイノベーションの機会ととらえ、質保証機関が国を越えて連携することの意義を強調しました。続いて戸田山客員教授より、新たな高等教育機関（専門職大学等）の創設や機関別認証評価における「適合認定」の規定等の認証評価に関する近年の動きや、コロナ禍におけるオンラインを活用した当機構の認証評価とそこから見えてきた課題等について発表しました。

各国の質保証機関からも、パンデミックが高等教育や質保証に及ぼす影響と課題や、最近の大学評価のトレンドや変更点等の紹介がありました。

主催機関のHEEACTからは、HEEACTが2021年に国内外の質保証機関及び国内の大学等を対象に実施したパンデミックの影響に関する調査について、パンデミックへの対応として台湾の大学等が教育と運営の両面を簡素化・オンライン化した結果、質の維持が課題となったことの報告がありました。これに対しHEEACTとしては、大学はリスクマネジメントを強化すべきこと、質保証機関はパンデミック時の質保証の具体的な方法を大学等に提案することが求められること、大学評価においては、学習成果、情報セキュリティ、オンライン学習における不正防止の観点が重要になること、の3点を提案することが述べられました。また、HEEACTにおける大学評価のトレンドとして、オンライン学習の質向上への取組、海外の質保証機関との連携、評価への学生参画に向けた取組の紹介などがありました。

このほか、マレーシア資格機構（MQA: Malaysian Qualifications Agency）からは、大学等の教育体系以外での学習や実務経験などを通じて得られた学習成果の認定の仕組みである「入学前経験学習認定（APEL）」の紹介、インドネシア国立高等教育アクレディテーション機構（BAN-PT: National



発表を行う福田機構長



発表を行う戸田山客員教授

Accreditation Agency for Higher Education) からは、インドネシアでは機関別評価（アクレディテーション）と分野別評価の両方が義務づけられており、現在、保健、教育、科学・数学、経済・マネジメント・経営、情報科学・コンピューター、工学の6分野で分野別評価機関が設置されている（上記以外の分野の評価については、機関別評価の実施など全国的な高等教育の質保証に携わっている BAN-PT が実施する）旨、発表がありました。

全体ディスカッションでは、パンデミックの収束が見通せないなか、大学評価の手法として現地訪問とオンラインを併用した「ハイブリッド型」が国際的に見て浸透しつつあるが様々な問題もあり、経験の共有等、質保証機関間の協力が求められること、また、パンデミックが高等教育機関・学生・質保証機関に与えた影響も踏まえ、質保証機関と高等教育機関が協力して効率的な大学評価の仕組みを構築していくことが求められる、といった議論が行われました。



国際会議の様子

#### ■HEEACT との覚書更新について

当機構とHEEACTは、平成23年6月に両機関の連携協力に係る覚書を新規に締結し、以来3度に渡って覚書を更新してきましたが、今般、当該覚書の有効期間（5年）の満了に伴う4度目の覚書更新を9月21日（水）、福田機構長及びHEEACTのDer-Tsai Lee 理事長\*の署名をもって行いました。

今回の覚書更新に基づき、両機関は引き続き、互いの高等教育質保証に関する活動の取組について情報交換や協力を深め、高等教育機関への支援の強化に向けて取り組んでいきます。

\*<sup>とうしちやう</sup>理事長とは、組織の長の意



福田機構長による覚書の署名

## 調査研究

### ○ 研究開発部教員紹介

飛原 英治 研究開発部特任教授



#### 当機構との縁

私は東京大学の新領域創成科学研究科を2020年3月に定年退職して、4月に当機構に着任しました。同研究科は1998年に設立された新しい研究科で、2代目の研究科長の河野通方先生は東大を退職後、当機構の教授・評価研究部長等を務められました。河野先生には、大学マネジメントに関して、ご指導いただきました。その中で最も大きな影響を受けたのは、生涯スポーツ健康科学研究センターの設立と運営を任されたことです。当時、駒場にある総合文化研究科にいらっしゃった小林寛道教授、石井直方教授から一般市民や高齢者などの低体力者を対象とした健康増進を実践する研究センターを柏キャンパスに作りたいとの提案があり、お世話をすることになりました。2005年にセンターは設立され、自分の専門は健康科学から遠く離れているのですが、2006年からセンターの運営に直接かかわることになりました。

センターでは身体の生理的メカニズムに基づき、中高齢者でも取り組みやすく継続しやすい運動方法の開発、そのトレーニング効果に関する研究、また体の状態や動きを簡便に検出しスクリーニングする方法に関する研究などが行われました。

人工的に酸素濃度を変えることのできる特殊環境試験室を利用して、筋内の低酸素化が特徴であるスロートレーニングを低酸素環境下で実施する研究や、高酸素環境を用いて一時的に運動能力を高める研究は特徴あるものの一つです。

酸素濃度が生体運動に与える影響の関連研究として、2010年8月に当時はやり始めていた富士山の弾丸登山の危険を回避する方法について、実験が行われました。標高2,500mを超えると、高山病を発症する可能性が高いといわれています。富士山五合目(標高2,400m)に短時間滞在することで、生体は高所

順応の傾向を示すのか、またそれがその後の登山活動にどのような影響を及ぼすのか明らかにすることを目的としました。実験当日は午前7時までに朝食を済ませ、JR富士宮駅をバスで出発して、富士宮口五合目に到着し、そこから登山し、その日のうちに富士宮口五合目まで戻ってきて、最終バスでJR富士宮駅まで帰るという(弾丸)コースにしました。被験者のうち半数は富士宮口五合目で1時間ほどじっとして高所順化するのですが、残りの半数は1時間後のバスに乗り、バスから降りてすぐに登山を始めるというプロトコルでした。登山中の生理応答を評価するため、心拍数(HR)と動脈血酸素飽和度(SpO<sub>2</sub>)を測定し、さらに血中乳酸濃度(Lac)の測定を行いました。登山スピードなどの個人差を少なくするために、団体に無理のないスピードで登山しました。

両グループの比較から、ほんの1時間の高度順化によってHRは有意に低下し、SpO<sub>2</sub>は有意に上昇すること、また登山中のLacを有意に低下させることが明らかになり、安全性が向上することが分かりました。休憩をしたグループは全員山頂まで行けたのですが、休憩しなかったグループの半数は途中から登山ペースが落ち、山頂手前の鳥居で引き返したそうです。私もこの登山に参加したのですが、体力が十分でなく、最終バスに間に合うために、9.5合目で引き返しました。悔しい思いをしましたが、大変楽しい実験でした。低酸素状態に強いかわかは、体質的なものが大きく作用し、人によっては富士登山も安全とは限らないので、無理しないでほしいと思います。

このような楽しい研究を経験する機会を与えてくださった河野先生は2019年8月に逝去され、お葬式は10月に故郷で執り行われました。河野先生は東大野球部の部長を長らくされていたことから、お葬式に出席された運動部の方からその様子を伺っていたときに、当機構の関係の方から、教員公募についてのお誘いのメールが届きました。偶然が重なったことから、これは河野

先生のお導きかもしれないと勝手に解釈し、応募することを決めた次第です。

専門は冷凍空調工学

2015年に地球温暖化の抑制を目的としたパリ協定が結ばれ、わが国も低炭素社会を目指して対策が進んでいます。わが国では2019年に2050年カーボンニュートラル宣言が出され、2030年の中間目標として、2013年基準に対して46%削減が示されました。地球温暖化の主たる原因は化石燃料起源の二酸化炭素の排出ですが、温暖化係数が二酸化炭素の数千倍あるフッ素化合物のハイドロフルオロカーボン(HFC、フロンとも呼ばれる)も規制対象となっていて、エアコンや冷凍空調機器の内部に封入されて、広く使用されています。わが国で排出される温室効果ガスの5%程度がこのフッ素化合物であると推計されており、その削減が大きな課題となっています。

例えば5年以上前に購入したルームエアコンには二酸化炭素の2,000倍の温暖化効果をもつフロンガスが約1kg封入されています。それをエアコン廃棄時に大気に漏洩してしまうと、二酸化炭素2トンが大気に放出したのと同程度の温暖化の原因となってしまいます。統計によると日本人一人当たりの二酸化炭素の年間排出量は9~10トンと言われているので、エアコンの廃棄時のフロンガスの漏洩の影響が大きく、その回収が重要であることが分かります。HFC類は成層圏オゾン層を保護することを目的としたウィーン条約モントリオール議定書の中で2016年に生産消費を段階的に削減することが決まり(キガリ改正と呼ばれる)、2036年までに基準年に対して85%の削減が課せられています。パリ協定よりかなり早い削減ペースが設定されています。温暖化係数の低い作動ガスを開発することを目標として、10年以上前から新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)プロジェクトが実施されています。私もプロジェクトリーダーとして次世代の作動ガス開発や低温室効果ガスを用いた機器開発に協力させていただいています。

---

ひはら えいじ 工学博士(東京大学)

令和2年3月まで 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

令和2年4月から 本機構研究開発部特任教授

当機構での役割

当機構に着任以来、高等専門学校機関別認証評価事業に参加しています。着任まで当機構の事業に参加した経験がなかったのですが、当初は事業内容を理解するのがたいへんでしたが、研究開発部の先生方や評価支援課の方々のご協力により、何とか進めております。大学に勤めていた時には、高等専門学校の専攻科を卒業して大学院に進学してきた多くの学生諸君を研究室に迎えました。高等専門学校の制度をよく知らなかったため、工学的な技術をよく勉強した向上心の強い人たちという印象でした。しかし、この機構で高等専門学校の教育を知るにつれ、高等専門学校の専攻科の学生は本科の10%しかいない選抜された学生であること、本科と専攻科で2回の卒業研究を行っていること、創造力や実践力を育む特徴ある教育を受けていることなどを知って、普通の大学の卒業生とは違う理由が分かったように思いました。研究室の卒業生は皆、製造業などの社会で活躍しています。

高等専門学校の機関別認証評価は大学の機関別認証評価と同じような制度ですが、高等専門学校は高校教育と短大教育が組み合わされた学校ですから、大学教育とは異なる面が多いです。教員は教務、校務、課外活動、寮務、研究、地域貢献など多くの仕事があるので、多忙な方が多いようですが、ほとんどの先生方は高等専門学校の教育に意義を感じているようです。また、学生に対するアンケートによると、学校に対する満足度は極めて高く、教育には十分配慮がされていると思います。高等専門学校は全国で57校しかなく、小さな世界ですから、内部質保証システムの普及が、高等専門学校全体の教育環境改善に結び付けばいいと感じています。

今後もよろしくお願ひいたします。

○ 新型コロナウイルス感染症対策について

当機構では新型コロナウイルス感染症対策として、令和4年10月の機構主催の各行事について、以下のとおり対応を行い開催しました。

令和4年10月

開催予定日	行事名	対応	担当課
4日	法科大学院認証評価委員会（第2回）	ウェブ開催	評価支援課
6日	令和4年度大学等の質保証人材育成セミナー第1回	ウェブ開催	評価企画課
14日	高等専門学校機関別認証評価検討ワーキンググループ（第3回）	ウェブ開催	評価支援課
28日	大学ポートレートステークホルダー・ボード	ウェブ開催	評価企画課

## 主要行事日程

### ○ Schedule

11月

日	行事名	担当課
14日	<a href="#">学位審査会（令和4年度第3回）</a>	学位審査課

12月

日	行事名	担当課
5日	<a href="#">令和4年度大学等の質保証人材育成セミナー第2回</a>	評価企画課
7日	高等専門学校機関別認証評価検討ワーキンググループ（第4回）	評価支援課
11日	令和4年度10月期学位授与試験（面接）（東京地区）	学位審査課
18日	令和4年度10月期学位授与試験（小論文）（東京地区、大阪地区）	学位審査課
19日	<a href="#">NIC-Japan セミナーシリーズ「中国の教育制度・高等教育資格」</a>	国際課

1月

日	行事名	担当課
中旬	高等専門学校機関別認証評価委員会（第3回）	評価支援課
20日	大学機関別認証評価委員会（第3回）	評価支援課
31日	法科大学院認証評価委員会（第3回）	評価支援課
下旬	令和4年度大学等の質保証人材育成セミナー第3回	評価企画課

訪問調査

日	行事名	担当課
10月～ 12月	訪問調査（大学機関別認証評価、高等専門学校機関別認証評価、法科大学院認証評価）	評価支援課



独立行政法人

大学改革支援・学位授与機構

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

